

[認知症対応型共同生活介護用]

## 1. 調査報告概要表

作成日 2008年8月5日

## 【評価実施概要】

事業所番号	” 0175000579”
法人名	株式会社 北欧ハウジング
事業所名	グループホーム はな
所在地	北見市桜町6丁目2-1 (電話) 0157-32-0087

評価機関名	(有) NAVIRE
所在地	北見市本町5丁目2-38
訪問調査日	平成20年7月23日

## 【情報提供票より】(20年6月3日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 10 月 19 日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	17 人 常勤 17 人, 非常勤 0 人, 常勤換算 6.2 人

## (2) 建物概要

建物構造	軽量鉄筋造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	14,000~17,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,200 円		

## (4) 利用者の概要(6月3日現在)

利用者人数	17 名	男性 5 名	女性 12 名
要介護1	2 名	要介護2	1 名
要介護3	5 名	要介護4	6 名
要介護5	3 名	要支援2	0 名
年齢	平均 85 歳	最低 66 歳	最高 97 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	美山クリニック・森谷記念整形外科・北見循環器クリニック・清月クリニック・たにぐち歯科クリニック
---------	---

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

北見市南地区の、商業施設に隣接した住宅地に位置し、並びには、同系列のサービスがあります。前庭には広い畑と花壇があり、数種類の野菜と、色とりどりの花が植えられており、リビングルームから眺めることが利用者の楽しみとなっています。ホームは、2ユニットで、1階(ひまわり)2階(はまなす)共に共通の理念“自由で 楽しく 安心”の基、家庭的なケアを目差し取り組まれています。介護度の高い利用者が多いホームですが、利用者の希望する医療機関との連携を密に取り、利用者の立場に立ったケアに日々取り組んでいます。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 避難訓練については、現在は年1回の実施ですが、夜間や冬季、又、地域との連携等、状況に応じた対応の必要性が話し合われています。職員研修について、施設長・管理者は、職員各自が利用者の立場に立ったケアを目差しスキルアップする事の重要性を認識し、研修参加の情報提供や声かけがなされています。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価、外部評価の意義は職員も理解していますが、時間の都合上、自己評価の取り組みは、施設長、管理者、計画担当者間で話し合いがもたれ作成されています。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 地域包括センター、町内会役員、家族代表に声を掛け、第1回が平成19年6月に開催され、その後3回開催されています。最近では平成20年6月に開催され、現在のホームの状況報告や年間行事の説明、避難訓練の説明や、包括支援センターから地域のグループホームの現状や「口腔ケア」「フットケア」の説明がなされ、活発な話し合いが行われています。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 管理者、職員は家族の面会時に声を掛け、不安や意見を把握するように努め、職員間で話し合い周知されています。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会の加入や踊りのボランティア、保育園児の来訪、教育機関の実習や見学等も積極的に受け入れています。又、管理者は、地域の民生委員の会議に出席し認知症理解の為の講演を行っています。
重点項目④	

(有)NAVIRE

## 2. 調査報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	昨年、従来の理念をより親しみ易い様に変更し玄関に掲示して、運営者、全職員、家族に周知されています。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者、職員は理念に添ったケアを心掛ける為、カンファレンス時や会議に於いて話し合い、意志の共有がされています。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入しています。踊りのボランティア、保育園児の訪問等の受け入れもされています。YMCAのハロウィンパレードの訪問時には、利用者がお菓子の手渡しをして、利用者の喜び事の一つとなっています。又、管理者が、認知症理解の為地域の民生委員の会議に出席し講演する等交流に努めています。		
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、施設長、管理者、職員は、自己評価及び外部評価の意義を理解し、外部評価結果については玄関先に置かれ家族にも理解して貰える様に配慮しています。又、運営推進会議に於いても報告がされています。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括センター、町内会役員、家族代表等で構成されています。平成19年6月に第1回が開催されその後2ヶ月に1回の開催を目差し回を重ねています。ホームの現状報告、行事の説明、協力要請等が話し合わせ、サービス向上に活かしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政機関には、施設長や管理者が出向き、相談をしたり情報収集をしてサービス向上に努めています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時には現在の様子や行事の案内等を報告し、緊急時には電話で報告がされていますが、定期的な報告は今後の課題となっています。	○	今後は、ホーム便りを作成する等、定期的に報告を行ない、職員、家族共に情報の共有がされることを期待します。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱は設置していませんが、家族の面会時に職員は積極的に声をかけ、意見や不満等を言ってもらえる様な関係づくりに努めています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	設立時より職員の異動が少ないホームですが、緊急時を想定し時々1・2階の職員数人を入れ替え交流に努め、利用者のダメージを防ぐ配慮がされています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者、施設長、管理者は、研修の必要性を理解し、勤務時間の工夫をしています。研修会に参加した職員は、報告書を作成して資料と共に回覧し情報の共有を図っています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム網走ブロック協議会で同業者との情報交換や勉強会に参加しています。又、運営推進会議時に他ホームとの交流も計画されサービス向上に向け取り組まれています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者、家族に見学してもらい、利用者に接する時間を多くするように心掛け、安心して暮らせる様に配慮しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	以前、看板職人だった利用者に居室の名札や絵を作成してもらったり、食事の後片付けなど、利用者の状況に合わせて、生活に張り合いが持てるように配慮しています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者とは話しをする中で思いを汲み取り、散歩をしたり、歌を歌ったり利用者に合わせて支援をしています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	施設長、管理者、職員は家族面会時に家族の意向の把握に努め、月1回のカンファレンスで検討し、利用者本位の介護計画を作成しています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に見直しが行われています。又、利用者に変化があった時にはその都度見直しをし、利用者の現状に即した計画を作成しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族に対し様々な補助制度の情報提供を行ったり、通院介助等、状況に即した支援をしています。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者それぞれのかかりつけ医と連携し、定期的な通院やその都度の通院・往診等の仕組みができています。又、協力歯科医の往診も行なわれています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	早期に本人や家族の意向を確認し、かかりつけ医との話し合いが行われています。要介護度の高い利用者が多いホームの現状を踏まえ、指針については検討中です。	○	状況に応じた終末期における本人、家族の意向の把握に努め、医療機関・職員間で、状態の変化に応じた対応方針の情報共有を期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人記録、書類等は事務所の書棚に保管されています。職員は、利用者に声を掛ける際には、プライバシーに配慮する様に心掛けています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	要介護度が進むなかで、声掛けを多くする事によって利用者に笑顔が見られる様になり、職員の励みとなっています。一人ひとりが家庭的な普通の暮らしが出来る様に努力をしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを把握した献立を職員が作成し、状況に応じた食事作りもされています。後片付けも利用者が出る範囲で力を活かしながら職員と共に行っています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回の入浴の他、状況に応じシャワー浴、清拭等、利用者の希望やタイミングに合わせて支援しています。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	管理者、職員は利用者一人ひとりの好みや興味の把握に努めケアに活かしています。家族と一緒に親睦会、菊祭り、フラワーパラダイス見学等の楽しみ事や土・日曜日を利用して隣のディサービスを訪問し気分転換を図る事もあります。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候に応じベランダに出て日光浴や散歩などの支援をしています。一人ひとりの状況に対応した支援までには至っておりません。	○	一人ひとりの状況や希望に合わせ、車椅子であっても日常的に日光浴や買い物に行く等、今以上に積極的に外出する支援を期待します。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施設長、管理者、職員は、鍵を掛けないケアの大切さを理解しており、日中は鍵を掛けないケアを実践しています。一人で外出する利用者には必ず職員が付き添い安全確保に努めています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回避難訓練が実施されていますが、夜間の対応や季節に応じた対応の整備又、地域の協力を得るまでには至っていない現状があります。	○	今後、夜間や季節に応じた対応等の整備や地域の協力を得る取り組みを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事量、水分量の記録があり、職員間で共有しています。特に、水分量については、声かけをし水分確保に努めています。今後、献立を専門家に見てもらい栄養面でも把握する予定があります。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには、大きな窓とベランダがあり、ゆったりと広い作りになっています。ひな祭り、端午の節句等、季節感を取り入れた飾りつけをし、家庭的な雰囲気作りに心掛けています。トイレも4ヶ所あり車椅子の対応など、利用者の状況に応じた対応が行われています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は9畳と広く、利用者それぞれの馴染みの物(ぬいぐるみ 写真 使い慣れた枕 イス)が持ち込まれ、安心して居心地よく過ごせる配慮がされています。		